

第2回横須賀市立北下浦コミュニティセンター分館指定管理者選考委員会 議事概要

日時：令和6年（2024年）10月11日（金）

13：00～17：30

場所：北下浦コミュニティセンター分館大会議室

【出席委員】手塚委員、工藤委員、安部委員、村野委員、櫻井委員

【欠席委員】なし

【事務局】久保副館長、橋本副主査、瀧上主査、磯崎主任、小野

【傍聴者】7名

【公開プレゼンテーション参加（指定管理者申請）団体】

- 1 株式会社キャリエ・レゾ
- 2 株式会社コンベンション・リンケージ
- 3 アクティオ株式会社
- 4 株式会社セイウン

<議事内容>

1 開 会

会議の成立(委員5名中、5名出席のため、会議は成立。)

事務局より本日の議事次第及び進行を説明

2 応募者プレゼンテーション等

指定管理者申請団体による提案説明及び選考委員からの質疑応答を行った。

概要は次のとおり。

(1) 株式会社キャリエ・レゾ

発言者	発言内容
委 員	施設管理の部分で「施設維持グループの新設」とあるが、具体的に、どこに設置し、どんなグループが運営するのか。
団体説明者	本社の法務管理グループに、館長と副館長を含んだ、本社担当者を中心としたグループを設置する。
委 員	個人情報の管理について、データと紙、それぞれどのような形で行っているか。
団体説明者	当社はPマーク（注：個人情報の取扱いが適切であると評価されたプライバシーマーク）を取得しており、Pマーク上で徹底して行う。紙は、基本的に社外への持ち出し禁止を徹底しており、施設内に用意した施錠できるもので管理する。データはセキュリティも加味して、Pマークに沿ってバックアップは適切に取りながらも、外部に持ち出さない、漏えいしないことを徹底する。

委 員	男女共同参画、多様な性への対応は非常によくわかった。従業員のメンタルヘルスについてはどうか。
団体説明者	メンタルヘルスの担当がいる。スタッフに産業カウンセラーもいる。メンタルヘルスについては社内でも実践している中で、不調でなくても面談を実施している。
委 員	提案のコンセプトは得意分野である IT を使ったいろいろなサービスを展開していくとのことだが、現状の施設の課題はどのように見ているか。
団体説明者	利用者数も大きな課題。市全体でも人口減、高齢化がこれからの課題。少しでも全体的に持ち上げられればということで、IT を通して活性化に役立てればと思っている。
団体説明者	現在の利用者の年齢層は高齢者が多い。20 代・30 代・40 代が集まれる場所を目指していこうと思っている。
委 員	申請書類の管理実績、いくつか施設管理業務を挙げているが、建物としての管理実績はどのくらい経験があるか。
団体説明者	指定管理は受けていないが、パシフィコ横浜では指定管理補助を7年間、管理本部の総責任者として実績を積んでいる。建物自体ということだと、自衛隊にある厚生センター、朝7時半から夜8時まで、（こちらの施設と）同じような時間帯で建物を管理運営している。あと防衛大学校で卒業式を行う多目的講堂、こちらの全体管理を長年担当している。
委 員	利用者への配慮で、苦情への対応を丁寧にやる提案だが、公平性の確保も公の施設では大切。こちらについてはどのような対策を考えているか。
団体説明者	公平性にもいろいろあるが、例えば駐車場のルールを設定し、1 団体で3 名まで（を上限とする）とか、ルールを決めて公正を保てればと考える。障害者についても、全員が平等に扱われるよう、他の施設でも運用している。
委 員	非常に多く提案いただき、地域貢献の部分など市内企業ならではの提案で大変ありがたい。その中で IT サポートの話があって、大変素晴らしい反面、お金がかかるんじゃないかと思う。この北下浦のコミュニティセンターとしての IT サポートのニーズをどのようにお考えになられて、どのような頻度で実施されるのか。
団体説明者	実施日数については、現在年間 200 日と考えている。土日が利用者数が多いので、もしかしたらそちらを重点的に行うかもしれないが、予算的に 200 日分を取っている。ニーズは、この地域にドコモショップなどのスマートフォンの使い方などを学べる場所がないので、このコミュニティセンターでそういうところを作っていこうと思っている、ニーズの調査はしていないが、需要はあると思っている。
団体説明者	先ほどもご案内したが、当社は市内の小中学校 71 校に ICT 支援員のサポートを行っている。横須賀市の生徒は他市に比べて非常に高い水準で PC の活用ができており、そこから IT に興味を持って、そちらをもっと聞きたいと支援員に声をかけてくることもある。IT サポートを高齢者だけでなく若い世代にも活用してもらいたい、高齢者ターゲットではなく、需要は幅広いところにある。
委 員	地域貢献で、地域にある色々な団体への参画を考えているか。また、活動と一緒に取り組んでいけるのか。そういう連携を取ることをどう考えているか。
団体説明者	他の団体との連携はしていきたい。活動も、年々いろいろな団体との連携もできており、これからも皆様のお力を借りたり、また我々の力で何かを活性化することに尽力していきたい。
委 員	文化的な提案、ICT とはちょっと違う、コミュニティセンターに特化したような提案について、そのあたりの経験は。また、費用で（講師費用の）謝金

団体説明者	が積んでない、年間 10 万円くらい。それでどのように展開されるのか、計画を教えてほしい。 いま提案しているのは陶芸と華道教室。陶芸は、市内アーティスト村の穴窯の薬王寺さんと連携が取れていて、社員や団体を穴窯に連れて行って陶芸をしている。当社が指定管理に応募する際、薬王寺さんが出張講義をしてくれる確約を得ている。華道に関しては、社内スタッフで免状を持っている者がいて、ぜひ海をバックに花を活けて映えスポットにしてみたいというのもあり、費用についてはさほどかからないので、安心してほしい。
委 員	地元の会社なので、たくさんの関連組織とタッグを組んでいるので心配はないが、その部分が割とここは需要があると思う。 それから、会計の方で、本社経費が最初の年度からどんどん減って、最終年度は半分ぐらいになるが、そもそも本社経費にどのような費用が含まれていて、半分に減る経過をどのように考えているか。
団体説明者	主に人件費。最初の方は本部から人を出すので、人件費が多くかかる。徐々に館内スタッフが慣れていくので、本部スタッフが削減できるので、人件費が減っていく。
委 員	最終的に残った 841 万円の内訳は何。パーセンテージとして。
団体説明者	主に人件費。本社担当者が訪問するので、その経費。
委 員	音楽の場所を提供するとあるが、コンサートのものと解釈している。これはどこの場所を提供することを考えているのか。この施設は残念ながら防音設備がない。いわゆるコンサートのものを考えているのか、それともコミュニティセンターの利用としての部分の音楽か。実際に楽器を演奏している利用者は多いが、ただ皆さん気を遣いながらやっている部分がある。音楽をやるにあたって、どのようなものをイメージされているのか。
団体説明者	現在のイメージはジャズ。使用場所に関しては、以前地下でカラオケをやっているということだったので、そちらを活用することを考えている。どのくらい修復が必要か見定めながらやっていこうと考える。
委 員	地下の利用を考えているということではよろしいか。
団体説明者	はい。
委 員	地下も使えると良い。
委 員	利用者アンケートで、スタンプでオリジナルグッズプレゼントの提案は実に面白い。特にお子さんがすごく喜ぶと思う。ただ、2階は貸室の部分で、3階は小さなお子さんから年上の子もいる。ヘビーユーザーに良いと思うが、お子さん向けだけでなく、幅広い世代に向けてどう進めていくのか。
団体説明者	アンケートは様々な方に答えていただけるように、ホームページを作成してそちらで回答していただいたり、高齢者の方には目安箱等を用意する。お子様にはスタンプカードで、バランスよく集められるかと考えている。

(2) 株式会社コンベンション・リンケージ

発言者	発言内容
委 員	館長ポストは貴社が運営されている全施設に設置されているのか。それから、利用者対応で紙媒体の活用とあるが、チラシなどを指しているのか。または本施設が地元と繋がりがあ町内回覧を行っているものもあるが、どういう風に考えているか。あと、確認だが、障害者雇用の関係で、様式 5 にチェックが入ってたのは間違いだと思うが、障害者の法定雇用率など今後の貴社の社会的なことをどのように考えているのか。
団体説明者	館長ポストは全施設に設置している。その施設で記入してもらって、施設改善の取り組みとか、こう修正したと貼り出したりするものもあれば、匿名でお願いしたいというものは個別に対応するものもある。館長ポスト以外

委 員 団体説明者	でも、全施設 HP に「お客様の声」ボタンがあって、それで投稿できる。これを全施設でやっているの、会社で情報共有しながら、ここ特有の問題も他の施設でも当てはまるような問題もあるし、逆のパターンもあって、他の施設で似たようなことがあったから、言われる前に事前にやろうというところもある、そういったところで役立っている。イベントをやる時のチラシは、年に 50 回毎週やろうとしている北下浦キャンパスというものがあるが、告知は単発の 1 枚のチラシというのは難しいので、イベントカレンダー的なものを作って、向こう 2 か月、3 か月のイベントのお知らせを作って配布したい。次に、障害者の法定雇用率だが、企業の責務として求められている。ただ、今法律で決まっているとおり、雇用率の基準が段階的に引き上げられており、近年のうちに 2.7% まで上げなければいけない、そういったことを考えると、会社としても企業の責務として積極的に常に取り組みでいかないとその数字に追いついていかない。企業の使命として取り組んでいる。 申し込みの際の書類に、ワンストップサービスの提供という提案がある。イベントだけでなく国際会議等の手配も経験されているので、きめ細やかなサービスがなされると思うが、こちらは無料と考えているのか。それから、地域の方々がお使いになる施設として、ニーズをどのくらいと見込んでいるか。
委 員 団体説明者	ニーズは、頼まれるだろうと想定しているのは、案内のパンフレットとかチラシを作成するから印刷してほしいとか、そういうニーズがあるかと。あとは、花を用意したいから買って置いてほしいとか、ちょっとしたミニ看板みたいなものを作りたいとか、映るようなものを作りたいとかあると思っている。そういったものに対応していきたいが、ものによっては、無料というわけにはいかない。たとえば印刷コストが掛かる、手間が掛かる。業者を紹介するやり方だと手数料はかからないが、こちらで引き取って業者と調整してやると原価も手間ひまも掛かるので、業者の請求額と、それに手数料としてたとえば 10% 乗せた見積りを、後ではなく事前に出すことで、納得してもらって引き受けるということを、ワンストップサービスとして他の施設でもやっている。 それから、キャンパス 50 について。毎週やるということで、施設活性化のために素晴らしい取り組みだと思うが、残念ながら、具体的にどういったものをやるかが見受けられない。どういったものを想定しているか。 これは、ここオリジナルの提案ではなくて、他の施設でも取り組んでいる事業。講座は、地元のニーズに合わせて毎年工夫を凝らしながらやっていく。たとえば将棋、絵画、語学、そういったものを作って利用者の意見を聞きながら、地域にどういうものを教えられ方がいるか照らし合わせて作っていく。やる目的というのは、文化度の向上というのは当然あるが、コミュニティを作っていく、人が集まることが重要。その中には、新しい知識だけでなく、連続物の講座をやることによって仲間ができて、そこが終わってもお茶を飲みに行ったり、そういうことができる、いわば仲間づくりとか、コミュニティに寄与するような講座などもテーマに組み込みながらやっていきたい。
委 員 団体説明者	最後に、保守点検のための休館日の設定を提案されている。もちろんこれは当然のことで、直営でやっても休館日は発生する。我々も悩んでいるところで、参考までにお伺いしたいが、第〇何曜日と提案されたのは、何かお考えがあってこの曜日に設定されたのか。 実はまだ我々も施設特性は十分わかってなくて、施設見学などさせていた中での提案なので、理由としては、たとえば稼働率が少ない曜日があればそこに当てはめて、なるべく利用者に影響がないようにするこ

委 員	とが重要だと思う。もう一つは、施設によっては、ここと決めないで、来月はこの時が空いてるから保守点検のチェックの日にしようということもあるが、昨今、その保守点検のコストが上がってきていて、流動的にやっていくとコストが難しい。業者側の立場でも、ある程度決めておいたほうがコスト交渉しやすい。そこはバランスを見ながら、実際やっていきたい。 一方で、利用者は曜日を決めて活動したりする。その辺のバランスは我々も考えてしまうところ。
委 員	法令遵守のところの個人情報の取り扱いについて。具体的なセキュリティ対策の中、管理の徹底ということで、個人情報を記録した各種媒体、紙・USB メモリ・CD-R・PC 等の持ち出し禁止とあるが、実際まだ USB メモリとか CD-R に個人情報を書き込むような具体例はあるのか。
団体説明者	USB メモリは私物の使用は禁止で、会社の貸出帳で管理されている USB を使用。オフラインの PC 間のデータ移行に使用している。外へ持ち出せるものも、管理台帳の下、イベント等が終了したら戻すことになっている。
委 員	それから、ハラスメント対策について就業規則が目次だけで読み取れなかったが、就業規則へのハラスメント対策は記載されているということによいか。
団体説明者	HP にハラスメントの社内で何かあった時の駆け込みができるどころの記載があって、担当に直通でつながる取り組みをしている。確か、就業規則にもあったと思うが、ちょっと記憶が定かでない。
委 員	人員体制のところで、総括責任者がいて、運営事務局、常勤があるが、実際に社員としてこの施設に常駐するのはこの 2 名で、残りは臨時雇用というイメージか。その関係で、臨時職員の人件費が多くなっているという理解でよいか。
団体説明者	そうです。おっしゃるとおり。
委 員	そこの人員体制の部分で、マルチタスクによる効率化みたいな表現があったが、ワークライフバランスと相反するのかなと思う。マルチタスクになると、かなりの負荷が 1 人あたりに掛かると思うが、現状の有給取得率とか時間外の平均などは大体どのくらいか。
団体説明者	具体的な数字はわからないが、社内のルールとしては、フルタイム職員に関しては月 20 時間以上の残業が禁止となっていて、それ以上は役員の申請が必要となっている。いまは、やっても平均 1 日 1 時間、ただ、基本はなくて、ある時に 2 時間とかやっていくようなところ。臨時雇用は、たとえば 20 時間の契約だと、それを超えてしまうと法的にダメなので、そこは契約条件通りやっていく。
委 員	ここの施設の課題、そして利用者利用の促進の中で WEB サイト・SNS を使っていくという話だが、ここの強みは何か。
団体説明者	まず、課題については、やはりこういう時代で、厳しい予算の中でどう効率的に運営していくかというのは難しく、調整が必要なところ。やはりコミュニティセンターなので、どうやってコミュニティづくりを行っていくかというのが課題なので、その辺を踏まえて、どうやったら人と人との繋がりが生まれるか、施設として何ができるか、といったところを課題ととらえて、今回の提案につながった。
委 員	強みとして、HP で何をこう、コンセプトとして。
団体説明者	HP については、施設のパンフレットといったものより、施設の印象を第一に決める入口だと思う。HP がみすばらしいと、ここの施設に立ち寄ってみようという気がまず起きないところがある。見た目的にも、ここの施設わくわくするなとか、イベント情報で、なんか楽しそうだな、いつ行っても何かやってるだろうな、といったものを HP でも発信する。あと SNS は、いまの高齢者が使っていないところ、だんだん年月が経つたびに、10 年後 20 年

委 員	後はみんな使うようになっていくので、プッシュ型の情報をどんどん発信して、ここでやっているイベントについて知っていただく取り組みを進めていく。
団体説明者	現在、ここで取り組んでいる地域の活動と、この地区の中の各団体との連携、参画を考えているかどうか。もし貴社の状況が許されるのであれば、私も地域で取り組んでいる一員なので、そういう活動に取り組んでいきたい。また、今までのコミセンの在り方を最重要視してもらって、取り組んでいただければと思う。
委 員	文化まつりなどで、非常に多くの既存のサークルが集まってイベントをやっていることなどは見させていただいている。そういった取り組みについては継続でやっていただくのと、プラスアルファ、新しい企画や講座など、そういったものをミックスして、今までやられていた方を尊重しながら、一緒になってこの施設を意欲していければいいなと思っている。
団体説明者	ボランティアという言葉が時々出てくる。市民を広く巻き込んで、こちらを運営していくという考え方があるのかなと感じる。巻き込んだボランティアの保険、保障というか、何か事故があった時の対応はどのようにお考えか。
委 員	たとえばアウトリーチで周辺を散策するようなイベントもやっていきたいが、そのときには地域をよく知った方に一緒に案内していただくようなこともある。そういった時に、イベント保険を1人100円とか掛けると、事故があった時に対応できる。他の施設の講座などでも活用しているので、ほかの講座も、危険があるようなものについては保険を掛けるようにする。施設の中では、施設賠償保険を掛けるので、保障については大丈夫。
団体説明者	収支の備品購入費、1年目が100万円でだんだん減っていくが、館長室備品購入と書いてあるが、館長室を別途設定される予定か。
委 員	間違って書いてしまった。館長室はない。
団体説明者	明細書にも5年分記載があるので、あれ、と思った。館長室を作っちゃうのかと。
委 員	備品購入費に訂正する。
団体説明者	あと、自動販売機の災害救援ベンダーはあちらこちらで使われているが、最近、鍵の貸し出しをなかなかしてくれないベンダー会社が多いと聞く。逆に水や何かを備蓄として預けるといいう会社が増えてるが、貴社がおつきあいされてるベンダーはそんなことはないか。
委 員	そういうことはない。我々は指定管理施設をメインとしているので、つきあっている事業者もその辺十分理解されている。
団体説明者	北下浦キャンパス50の話で、毎週やっていくという形になるとそれなりの費用もかかると思うが、これは広告宣伝費の中の費用で見ているのか。
委 員	広告宣伝費で宣伝していくが、講師への謝金で、2時間やるなら1時間3,000円・2時間で6,000円ほしいというなら、目標遂行人数20人とか、参加料をいただいてツーペイ（行って来い）でやっていきたいと考えている。
団体説明者	あと、ハイレベルな講座を提供していきたいとあるが、具体的にハイレベルとはどういったものか。
委 員	毎回、市民の方で芸術とか何かに長けている方ばかりで講座をやるのではなく、例えば大学の先生を呼んだりとか、少しいつもとは違うところも織り交ぜていかないとマンネリ化してしまうので、そういう講座も取り入れていきたい。

(休憩30分)

(3) アクティオ株式会社

発言者	発言内容
委員	3点質問したい。1つ目に地域防災の関係で、町内会とか観光協会、そういった地域団体に会社として参加の意思はあるか。もう1点、人員の関係で、3階は1名固定するとの話だが、子どもが多いとき、休みの日とかは、1名だけだと手に負えないことが実際ある。こういう時、利用者が多そうだからとすぐにもう1名追加できるのか、それが可能なのか聞きたい。最後にコミセン祭りのことについて、ご存じと思うが、コミセン祭りは文化まつりとして現在実施している。貴社でまた独自に実施されるのか。
団体説明者	1つ目の質問で、地域団体との連携による地域防災に関しては、地域の一人として交流を深めコミュニケーションを図るために、こういったものにはぜひ参加させていただきたいと思っている。2つ目の人員の件は、運営というのは始まって初めて気付く点であったり、ここは危ないなと思ったり、気付くことが多々ある。その時は安全第一ということがあるので、臨機応変に対応したい。具体的には、事務所に職員がいるので、その者が3階に駆け付けたりということが考えられる。また総合的に人員が足りない場合は、本社に運営課の人員が20名ほどいるので、現場に応援に駆け付けることも可能。3つ目のコミセン祭りに関しては、指定管理者制度が導入されて事業者が入ったとしても、これまでやっていらした活動というものは尊重しなければいけないと思う。それを援助する形で、それに付加価値をつける形で、今までやってきたことをさらに活性化させていきたいと考えている。
委員	貴社は全国規模で施設管理、指定管理をされていると承知している。私も、指定管理者制度の立ち上げの時、本市が制度運用を始めたとき担当していたので、当初から社名は存じ上げている。豊富な経験をお持ちなのは承知しているが、それゆえに、提案を見ると、売りというのがどこなのかと思った。貴社が指定管理者としてこちらの施設の管理をするうえで、みんなの居場所をデザインするというコンセプトをお持ちだが、こちらの提案書の中の売りはどれか。
団体説明者	まず感じたのは、もっともっと繋がれるんじゃないかと思った。その繋がりを導き出すための今回の売りとしては、居場所づくりの事業がまず一つ大きくある。その居場所づくりで多世代の方がその場を通じて繋がっていくこと、それによって北下浦の町の活性化にも繋がるのではないかと思い、数々の事業を提案した。その中でもさらに、提案書の中にある天体観測室の改装、資源を使う、元々あるものを活かしていく、それを最大限に使い続けていくところを今回の最大の売りとしている。
委員	提案書で目標設定してあって非常に素晴らしいと思う。目標を持って、それを実現させるために。利用率の方も、53%という目標設定をしていると思うが、この目標を実現するためにどのような取り組みをしていくのか。
団体説明者	当社ではどこの指定管理施設でも数値的な目標を掲げている。定性的、定量的なことを設けた方が、数値にした方が皆が分かりやすい。現場の職員スタッフが一つの方向を向いて努力しようということで、その目標を掲げることが大事。4月から管理を開始する前に、ミーティングや研修等でこういった事業計画を示しながら、この目標を達成するということが皆で合意してやっていきたい。本社側の担当者は基本的に毎月、所管課との定例会を設けたり内部でのミーティングは行うが、四半期に1回、一定の役職者も現場に入って、3か月に1回目標の進捗チェックを行う。当然、1年間の目標を達成するためには四半期ごとにクリアしなければいけない数字が発生するので、それが達成できているか、もし達成できていないのであれば新たな視点で、来館率がショートしているのであれば人に来てもらうための事業の回数を増やす、もしくは魅力的な事業を実施する。それに加えて、やっていることだ

委 員	けじやなく広報とのセットだと思うので広報力を高めるとか、どこに問題があるのかを検証しながら実行していく。 こちらの施設の利用率として53%というのは、なかなか高めの設定かと思ったので、素晴らしいことだとは思いますが、確認させてもらった。あともう1点最後に、1階の総合受付について。これが市だと、ずっと管理をしていく中で気づきにくい部分でもあって、指摘はありがたい。ただ一方で、動線としては、なかなか悩ましい。1階から入ってくる人がいる一方で、渡り廊下から入ってくる人も一定数いると思っている。その辺のケアはどのように考えるか。
団体説明者	渡り廊下から入られると、今は2階に必ず1人いるという状況だが、内線電話の設置や館内掲示などを徹底して、慣れるまではフォローしていきたい。幸いにもロビーが吹き抜けになっているので、見下ろせばすぐに職員が気付けるという開放的なスペースもぜひ活かしたい。
団体説明者	当社が指定管理している施設でも、複合館で同じような構造になっているところがある。その場合、渡り廊下を渡った2階に「1階で手続きしてください」と書いておくと、ほぼやってくれるということがあるので、利用者、来館者とのコミュニケーション、信頼関係といったことで地道にやっていきたい。
委 員	この地域は36町内会・自治会、そのほかに大きな町内会がある。それらが地域運営協議会の諸々の行事に年間の予定を立てて取り組んでいる。そういうものに同じように参入していただいて、たとえば会議に代表者を出してもらって、積極的に参画していく気持ちはあるか。
団体説明者	地域との連携とか、我々が後から入ってきたものなので、地域の人たちに認めてもらうという感覚を含めて、我々から飛び込んで行って、いろんな行事であったり、もしかしたら地域の課題ごとなども一緒にクリアしていきたいと考えている。事業者は実際は指定管理者なので、公共施設という性質上、他の施設では地域との協議会の参加が義務付けられていることもある。そこは全く違和感なく、むしろこちらから積極的にお願いしたいところ。
委 員	貴社は全国的にいろいろな面で事業を展開されていると思う。我々としても、いま現在やっているものが全て良いとは思わないが、お互いに情報交換できれば、そして切磋琢磨しながら地域の活性化に繋がればと思う。
委 員	5点ほど質問したい。まず地域課題として、人口減少によるコミュニティが減少というのがコンセプトで掲げられているが、人口減少は地域課題というより社会課題だと思う。どこの地域も同じ課題になるので、人口減少以外のコミュニティ衰退の事由、課題は何だと思うか。
団体説明者	人口減少以外でのコミュニティの衰退といいますと、やはり人と人との繋がりがだんだん希薄化しているというものはある。今回、焦点としたのは、人と人との繋がりが希薄化している中で、そこに行けばみんながいるという場所を作る、それでコミュニティというものが活性化されていく一つのきっかけになると思う。
委 員	そういうことで繋がりを強めていく動きがある。地域ニーズの掘り起こしをしていくというのがそこに繋がると思うが、どんな地域ニーズがあると思うか。
団体説明者	現地を訪問して実際に感じたのは、お子様たちも割といつも常連のお子様だし、あとシニアの皆様も憩いの場として居心地よく将棋をされて、割と常連がいらっしゃる、まだまだ掘り起こしをしたいのが、小学校にしても、地域、北下浦地区から野比や津久井エリアまで最終目標として掲げているが、もっとと知っていただくことでこちらの居場所を目指してくる人が、確定ラインでいるのではないかと。

委 員	新しいターゲットとしてはどういう層になるか。
団体説明者	若いご家族の方を、まずは取り込みたいと思っている。
委 員	新しい居場所づくりの中で、観光協会会員の商品なども販売したいという発言があったが、これは障害者施設等ではなく、なぜ観光協会なのか。
団体説明者	行政センターに観光協会があって、連携したい先の一環で観光協会の名前を出した。繋がりがどんどん強くなっていくことで、最終的には北下浦の町の活性化というところで、もっと北下浦の町を魅力発信できるのではないかと思います、観光協会の会員になられている人も多く、一緒に連携できないかと思って書いた。
委 員	非常に多くのイベントの提案をいただいているが、職員の負荷がかなりかかってくるのではないかと想像される。メンタルヘルス対策はどうなっているか。
団体説明者	北下浦のシステムとして、いわゆるダブル・サーヴェイとのことで、年に2回メンタルケアをやる。社内に専属の臨床心理士がおり、都度都度サポートする。困ったことをなかなか言い出せない環境があるので、ホットラインを設けており、会社の基本方針とか書いたものに、こういう時はこういうところに連絡しようと思った紙を各従業員に配っている。
委 員	カスハラ対策などはどうされているか。
団体説明者	最近、本社のある東京でもカスハラ条例ができたところで、実際リアルな話をする、公共施設は比較的そういった方が多いと思っている。我々は民間施設もやっているが、公共施設はいい意味で誰でも来れるということがあって、間違えると、公の施設だから何してもいいとなってしまうので、そこから一定のルールを設ける。対応の中でも明確にルールを決めておかないと、何を根拠に言っているんだということになるので、ある程度、皆さん全員が雰囲気や居心地のいい空間にするためにこれだけは守りましょうということをあらかじめ書いておいて、注意をする。一次対応者もメンタルに来るので、一次対応者、二次対応者、さらに本社から一定の役職者が来て対応することで、会社を挙げて対応していく。その中では、所管課との連携も大事なので、情報共有を密にしながら対応できればと思う。
委 員	最後に、窓口の一本化という部分で、おそらく先ほど説明のあった警備業務の一括化とか、防犯カメラを付けていくということで、設備点検費になるか、予算の中でも大きく占める形になっている。窓口の一本化と、経費が増えていく部分のバランスをどう考えているか。一本化することによって経費がこれだけ増えてしまうという部分は、今のままであればそこは掛かってこないわけで、その辺はどう考えるか。
団体説明者	収支に上限があり、なかなか厳しいという話はあった。その中で、我々としてはぜひこの施設を任せていただきたいので、なんとか納める方法を考えた中で、人件費の方が高かったので、人件費を抑えつつ、掛かる諸経費を上げていってバランスを取ったというもの。
委 員	スケールメリットによる支出の削減という項目があるが、逆に収入を上げていかなければならない側面もある。そこに関しては何か手法をお持ちか。それから諸会費というのがあって、先ほど観光協会の話が出たが、そのほかに考えているところがあるか。この2点だけ質問したい。
委 員	終了時間を過ぎましたので手短かにお願いします。
委 員	はい、すみません。
団体説明者	収入を上げる方法は、正に稼働率を上げて利用料金を上げるという方法と、自主事業の参加率を上げる、この2点を頑張るしかないと思っている。
団体説明者	諸会費に関しては、先ほど申し上げた観光協会と、あと町内会費。こちらを諸会費に含んでいる。

(4) 株式会社セイウン

発言者	発言内容
委 員	3点ほど質問したい。①マルチスタッフはがいろんなことをやることに對する負担についてどのように考えるのか ②ロッカーの設置について、ロッカーサイズ感、そして中に入れられるものと期間について ③いろいろ無償サービスを提案されたが、無償に慣れるのもどうか、少額でも費用を取ってもいいのかと思う。
団体説明者	①マルチスタッフについてはいくつかパターンがある。受付と清掃のマルチスタッフを1名配置する。他施設でやってる実績もあり研修も行う。見守りと事務を兼務するスタッフがいるが、基本的には受付事務については専門スタッフ、休憩時間を取る際の短時間だけの勤務。②ロッカーは大きなスペースではなく、楽譜とか資料とかそういったものを保管するスペース。1年単位で利用団体を募集して、危険物とか、現金とか貴重品については保管しないよう規約をつくる。③市民サービスの向上を図って提供していくが、意見も参考にプログラムの見直しをしていきたい。
委 員	収支予算書で委託料が提案他社と比較してもかなり安い金額だが、これが実現できる理由、根拠を教えてください。
団体説明者	委託費については、当社でメンテナンス業務を行っており、日常清掃それから植栽管理の一部を自社で行う。
委 員	マルチスタッフが日常清掃を行うということか。
団体説明者	そう考えている。その分は人件費で見ているが、初めてなのでちょっと難しいといったことも想定されるので、そのときは柔軟に見直しを考える。
委 員	マルチスタッフは、既にさまざまな施設でやっている実績があるのか。
団体説明者	全てということではない。施設の規模とか利用状況によって分けた方がいいケースは分けている。利用状況とか職員配置の状況を検討した結果、こちらではそれがいいと判断した。
委 員	利用率について数値目標を掲げてあり、大変素晴らしいことだと思う。利用率を向上させるために、現状から比べるとかなりチャレンジングな数値が出たところで、それを実現するためにどういうことを取り組まれて、この目標を達成しようというふうにお考えか。
団体説明者	一番は、地域の様々なニーズを汲み取った上で地域住民の方のニーズに合った自主事業を増やしていきたいと思う。そこで成功した事例については、その講師の先生それからその参加者と調整しながらサークルを立ち上げていきたいと思っている。こちらも他館では年間3.4団体を育成した実績もあるので、そういった参加団体を増やしていきたい。
委 員	確かに5年間で縮減できるのは、企業が運営していく上で、設備投資の圧縮とか、もっと大きく言えば人件費。その辺を踏まえて、貴社がやられる部分と、それから地域活動に取り組んでいくときに今言われたマルチスタッフの人件費ってどの程度考えておられるのか。
団体説明者	まず現状として現在の求人市場は非常に厳しい状況。他の施設もそう。また、経費の縮減も、スタッフが全て行うのではなくて例えば地域のボランティア、読み聞かせについてボランティア協力してもらおうとか考えている。
委 員	先ほど人員配置の部分でセンター長、副センター長も含めて市民から公募というか募集をするという形で記載があったが、副センター長の交流事業担当の方がやる交流事業がかなり多くの事業の提案がある中で、新たに募集をかけてその人がやっていくのはかなり負荷がかかってくると思う。
団体説明者	特に最初の1年目2年目は、いろんな地域の団体とのコネクション作ったりだとかの段階。なので本社マネージャー2名体制でサポートに入りまして、最初は本社としてその担当者が一緒になっても進めていくというイメージを持っている。例えば公民館のところで年間50回やってる施設もある。

委 員 団体説明者	本社の方は常駐しないということ。 常駐はしないが、最終的にはおそらく週に3日のペースでこちらに来て一緒にやる。
委 員 団体説明者	常駐しないのは施設管理という部分ではどうなのか。プロジェクト後はおそらくスタッフなんかは臨時雇用職員になると思うが、その辺の本社での管理体制が、常駐しないっていう部分ではどうか。他で実績があると思うが。 まず一つは、センター長以下の地元の方、地域の方によって運営するシステムだと考えるので、本社はあくまでもサポートと考える。10年以上様々なそういったものを施設に指導しながらやってきた。
委 員 団体説明者	もう一つ、ホームページで他のコミュニティセンターなどとの差別化という部分と、コンセプトのどこにホームページを持っていったターゲットはどこにしていけるのか。 情報発信については、高齢化などもあり、過去よりは施設利用がちょっと減っている状況と認識している。そういった様々な地域団体の活動を活性化したいのが一番の思い。いろんな情報、ホームページのストーリーズとか、例えばソーシャルメディア等を通じて活動の模様を発信したりとか、そういった利用に関する情報を提供したい。
委 員 団体説明者	稼働率を上げていくというが、なかなか上がらない。そこに数字をあれだけ記入できた根拠があれば教えていただきたい。 コロナの前の実績になるが、大体平均して5年間で1割増の実績。何をやるかというと、やっぱりサービス向上とか団体参加者の自主事業体の育成とか、そういったものを考えている。今回はスタートだと考え、少し高い目標を掲げている。
委 員 団体説明者	となると、1人ずつとのやり取り、市民とのやり取りを増やすことによって、活性化していく。その市民の方とのやり取りを増やす中で、先ほど交流のところでもものすごい数、40何事業って書いてあったので、相当な数だと思うが、セミナーや研修のようなものについては、費用はどういうふうを考えておられるか 基本的には自主事業で、指定管理料とは別に計上している。基本的な考えとしては、どうしても利益の出る事業、例えばヨガとかそういった運動関係の事業については人が来やすいのでそういった運動系の事業とか自動販売機等である程度利益を稼いでた上で、例えば地域学習ですとかそういった内容についてはなかなかちょっと難しいところがある。
委 員 団体説明者	最終的には利益を上げていかないといけない。受益者負担についてはどのようにまとまっているか。 基本的に例えば自主事業の料金設定に関しては、公共の場というところで多くの方に参加していただきたいというので、例えば総合民間サービスと比べると大体半分ぐらいと考えている。
委 員 団体説明者	館長さんも含めてどなたがおやりになるか、もしいかなかったらどなたかみたいな候補も今のところはまだ決まっていないのか。 議会で通過後、地元の方から募集する。
委 員 団体説明者	どんな方に館長さんになってもらいたいと思っているか。 地域交流ということが一番の成果と考えておりますので、そういった地域の活動経験のある方。地域のいろんな活動があると思うが、そういう子供会とか高齢者支援とかバランスをとって、いろいろそういった経験のある方にお願いしたい。

3 その他

第3回選考委員会は、10月25日（金）12時30分に開催予定。

4 閉 会